

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：42680

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04661

研究課題名(和文) 明治期の幼稚園教育における「修身」と「美感」の形成に係る実証的研究

研究課題名(英文) Empirical Research of the Formation of 'Ethics' and 'Aesthetics' in Meiji Period Kindergarten Education

研究代表者

桑原 公美子(北川公美子)(kuwahara, kumiko)

東海大学短期大学部・東海大学短期大学部・教授

研究者番号：00299976

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：明治期の教育界では、教育勅語を頂点とする修身的な教育的価値を重視する一方で、明治30年代にヘルバルト派教育学が導入されると、教材としての童話をとおした美感の形成に価値を求める動きが起こった。幼稚園教育もその影響を受け、そこでは童話が持つ「想像性」をどのように捉えるかが大きな争点となり、それによって修身と美感の形成の構図が変容していった。本課題研究では、その過程を実証的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本課題研究で明らかとなった、幼小の深いつながりを基盤とした、童話をとおした教育目的としての「修身」と「美感」の構図は、現在の日本の教育界が抱える状況・課題と同じである。現在の教育においては、「幼小の連携・接続」の強化という方向性が示され、また教育内容では「道徳の必修化」や「国語における文学教材の取扱い」という動きが起こっている。「歴史は繰り返される」という言葉に従うならば、過去の同様の課題においてどのような論争があり、その課題に対応したのかを明らかにすることは、現状の教育的課題に対する示唆を与え、議論をより深めることにつながると考える。

研究成果の概要(英文)：In the Meiji educational world, although education stressing the teaching of morality reached its peak with the Imperial Rescript on Education, there was a movement which sought value in the formation of aesthetics using fairy tales as teaching materials following the introduction of Herbart-style pedagogy in the 30s of Meiji period. Kindergarten education was also affected, and the question of how to handle the imaginative nature of fairy tales became a major point of contention. As a result, the composition of ethics and aesthetics formation was transformed. In this research study, the process of this transformation has been empirically defined.

研究分野：保育学、児童文化

キーワード：幼稚園教育 小学校教育 童話 文学教材 修身 美感 明治 ヘルバルト

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始と時の先行研究においては、明治期の幼稚園教育の普及に向けた動きは消極的であったとする見方が多く、また、様々な西洋の教育思想・方法を貪欲に導入した小学校教育に比べ、幼稚園教育ではフレーベルを中心に、独自の保育内容・方法を展開していたと見做されていた。しかし、幼稚園保姆は「小学校本科正教員又八准教員」(改正小学校令施行規則、明治 33 年)と規定され、また槇山栄次は、小学校の「初年級ノ教師タルモノ(略)幼稚園保育法ヲ攻究シ、教師ト保姆トヲ兼ネタルノ意気ナカルベカラズ」(『小学校ノ初学年』明治 34 年)と指摘し、幼稚園教育を小学校との繋がりの中で位置づけていたのである(拙稿「明治期の北海道における小学校から見た幼稚園」、『乳幼児教育学研究』第 20 号、平成 23 年)。

これまでの研究をとおして、明治期の幼稚園教育と小学校教育の密接な関係性(拙稿「明治期『婦人と子ども』にみる幼小の関係」、『乳幼児教育学研究』第 22 号、平成 25 年)や、小学校ではヘルバルト派教育学の普及によって美感の形成が教育目的とされ、その教材として童話が導入されたこと(山本康治「明治末から大正期における小学校国語教育へのヘルバルト派教育学の影響について」、『東海大学短期大学紀要』第 47 号、平成 26 年)またそれが幼稚園教育にも影響を与えたこと(拙稿「明治期の幼稚園教育と「童話」」、『保育学研究』第 51 巻 1 号、平成 25 年)を明らかにしてきた。そして、児童文学の観点から、同教育学の教材として選択されたグリム童話と並び称されるアンデルセン童話が「情緒の美なる点に於てはアンダアセンが空前絶後である」(蘆谷蘆村「お伽噺の教育的研究に就て」、『帝国教育』第 354 号、大正元年)と評価され、それを契機に教育界と関わるようになったことも立証してきた(拙稿「明治期のアンデルセン童話と教育」、『児童文学研究』第 47 号、平成 26 年)。ただ、これらは「枠組み」としてのつながりがあったことの立証に過ぎず、実際の幼稚園の保育内容における小学校の影響については具体的かつ詳細な検証にまで至っていない。そのため、その保育・教育内容の共通性・関連性を実証的に解明することが必要である。

明治前期は忠君愛国に象徴される「徳性の涵養」が目指され、「修身」重視という流れの中で、明治 13 年の「改正教育令」では教育内容の筆頭に「修身」が置かれ、また、日本の幼稚園教育のモデルとなった東京女子師範学校附属幼稚園の保育内容では、明治 17 年の改訂で徳育を保育の中心にすることが明記され、保育項目「説話」の上位に修身が位置づけられた。しかし、明治 30 年代にヘルバルト派教育学が導入されると教材としての童話に目が向けられ、ここでは「美感」の形成が目指されたのである。それまでの修身重視の方向性に対する反動を示すかのように、美感の形成を目指す同教育学は大流行し、童話の教材としての地位も急速に高まっていく。これまで明治期の幼稚園教育においても童話を教材として活用されていたことは指摘されてきたが、それはフレーベルの理論を踏まえた幼稚園独自の教育実践の一つとして捉えられてきたに過ぎず、当時の教育界の状況との関連にまでは言及されていない。当時その存在が微弱と評される幼稚園教育も、しかし確実に教育界の一端を担い、その中で影響を受け合いながら進められてきたことを、保育内容まで踏み込んで具体的に実証しなくてはならない。

これまでの研究の中で、幼稚園教育における教材としての童話の役割について、「修身」と「美感」の形成の関係性から考察を試みた(拙稿「明治後期の幼稚園教育における童話の役割」、『乳幼児教育学研究』第 25 号、平成 28 年)が、ここでは幼稚園教育の「説話・談話」および小学校教育の「国語科・修身科」における童話の教育的意味について、ヘルバル

ト派教育学とフレーベル教育学それぞれの教育理論を踏まえた考察までは至らなかった。幼稚園教育における童話導入の背景には、当時教育界を席卷していたヘルバルト派教育学の存在があり、それによって引き起こされた「修身」と「美感」の形成という一見相反する教育目的が共存した現象が童話という教材によって展開されていたという構図は明らかにされていなかったのである。

## 2. 研究の目的

上記に示したように、近代的教育システム確立に向けて動き出した明治期の教育は、小学校を中心に、忠君愛国を教育目的とする「徳性の涵養」に向けた「修身」重視によって進められたが、明治 30 年代に品性の陶冶を目指すヘルバルト派教育学導入を契機に、童話を通じた「美感」の形成が目指されるようになる。この「修身」と「美感」の形成は同一の方向性をもって共存し、それらは童話等をとおして実践され、それはやがて大正期の児童文学開花期へとつながっていく。

これまで明治期の幼稚園教育は、こうした小学校教育とは一線を画し、独自の教育方法で進められたと考えられてきた。しかし、実際には両者は深くかかわっており、そうした幼児期からの継続した教育の流れが、児童文学誕生の重要な基盤として機能したと考えられる。

本研究では、小学校教育との連動的動きの中で展開された幼稚園教育における「修身」と「美感」の形成の関係を実証することとおして、明治期の幼稚園教育の実態と構造の一端を明らかにすることを目的として行った。

## 3. 研究の方法

本課題研究は、以下の3つの系列「A～C」により計画・実施した。

### (1) [ 研究系列 A : 修身および美感の形成に関する研究 ]

本系列では、幼稚園教育の目的の中で修身および美感の形成がどのように示されているのか、またその保育内容としてどのようなことが考えられたのかについて、小学校教育の内容を含めながら、当時の保育・教育雑誌等の文献調査から明らかにした。その際、明治期に童話の教育的価値を定着させたヘルバルト派教育学と、幼稚園教育の理論を支えたフレーベル教育学における修身と美感の形成も含めながら考察した。具体的には、「明治期のヘルバルト派教育学とフレーベル教育学の修身・美感の形成」「明治期の幼稚園教育の目的および保育内容の変遷」「明治期の幼稚園教育における修身および美感の形成を目的とした保育内容」「明治期の小学校教育における修身および美感の形成を目的とした教育内容」に関する文献調査・研究を行った。

### (2) [ 研究系列 B : 教育および児童文学における童話の役割に関する研究 ]

本系列では、幼稚園教育の「談話・説話」および小学校教育の「国語科・修身科」における童話の教育的意義とその取扱いについて、児童文学から見た童話の意義等も含めながら、文献調査をとおして実証した。具体的には、「明治期の幼稚園教育の「談話・説話」における童話の教育的意味およびその取扱い」「明治期の小学校教育の「国語科・修身科」における童話の教育的意味およびその取扱い」「明治期の児童文学の視点から見た童話の教育的意味およびその取扱い」に関する文献調査・研究を行った。

### (3) [ 研究系列 C : 教材としての童話の保育実践に関する研究 ]

本系列では、当時の保育日誌・保育記録等の文献調査をとおして、修身と美感の形成という教育目的で行われていた童話を用いた、保育・教育の実践について明らかにした。具体的

には、「明治期の幼稚園教育において実践された童話とその取扱い」「明治期の小学校教育において実践された童話とその取扱い」に関する文献調査・研究を行った。

#### 4. 研究成果

各研究系列ごとの研究成果は、次の通りである。

##### (1) [ 研究系列 A : 修身および美感の形成に関する研究 ]

本系列では、「徳性の涵養」という教育目的のもとで、修身と美感の形成の両方を内包・共存する形で捉えようとしていたが、日本の幼稚園のモデルとなっていた東京女子師範学校附属幼稚園の保育内容の変遷を調査した結果、保育実践では「美感の形成」の教材が十分ではなかったことが明らかになった。また、当時、フレーベル教育学はヘルバルト派教育学を踏まえたものであるという主張も存在し、明治期の幼稚園教育の基盤はフレーベル教育学と見做されていたが、当時の保育実習生の記録等から、幼稚園保姆がヘルバルト派教育学についても学び、フレーベルとヘルバルト両方の教育思想を内包する保育が行われていたことが明らかとなった。一方、小学校「国語科・修身科」の教育内容は、「美感の形成」が徐々に教育的価値を得ていったことが明らかとなった。特に明治 30 年代に焦点をあて、教育勅語を頂点とする修身的な教育的価値を重視する一方で、ヘルバルト派教育学の導入と流行によって、教育における美感の形成に価値を求める動きがあり、文献調査をとおして、その具体的な保育・教育内容についての激しい論争を明らかになった。

##### (2) [ 研究系列 B : 教育および児童文学における童話の役割に関する研究 ]

本系列では、幼稚園教育の「談話」および小学校教育「国語科・修身科」における童話の教育的意義について、さまざまな言説があったことを実証した。特に、小学校の「国語科・修身科」における童話の取扱いの調査をとおして、その教育的意味が「徳性の涵養」と「美感の形成」に二極化していったのである。その中で、修身と美感の形成という教育目的に向けて、教材として活用された童話は、その童話が持つ「想像性」をどのように捉えるかが、大きな争点とされ、それは幼稚園教育でも小学校教育でも同様であったことが明らかになった。また、修身と美感の形成という教育目的を担っていた童話は、その内容を子どもに強く確実に伝えるために「話し方」にも目が向けられ、それが児童文学で展開された口演童話との結びつきを生んでいた。それは一方で、教育分野における童話の役割を、児童文学との違いを意識しながら、より強く打ち出さなければならないという教育目的の模索につながったことが示唆された。

##### (3) [ 研究系列 C : 教材としての童話の保育実践に関する研究 ]

本系列では、系列 A・B の教育・保育現場における実態を明らかにするために、日誌・教案の童話・文学教材に関する記録に対する調査を行った。小学校教育においては、教案等が教育雑誌にも数多く掲載され、その動向を把握し、同時の教育現場における実態を明らかにすることができた。幼稚園教育については、保育日誌等を所蔵している機関が多くはなかったが、当時の幼稚園組織が出版した童話集等も対象として調査・分析を行い、童話をとおして修身と美感の具体的な構図を実証することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 北川（桑原）公美子	4. 巻 52号
2. 論文標題 明治期の幼稚園教育における口演童話に関する一考察 - 口演童話の三大家とのかかわりを中心に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東海大学短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北川（桑原）公美子	4. 巻 32号
2. 論文標題 明治30年代の幼稚園教育における想像性をとおした「修身」と「美感」の構図 - 小学校教育とつながる童話の教育的意義 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東海大学短期大学部生活科学研究所所報	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本康治	4. 巻 53号
2. 論文標題 明治期小学校修身科における文学教材の位相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東海大学短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本康治	4. 巻 55号
2. 論文標題 明治期国語検定教科書における「韻文教材」の位相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 湘南文学	6. 最初と最後の頁 93-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 北川（桑原）公美子
2. 発表標題 明治期の幼稚園教育におけるフレーベルとヘルバルト
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	山本 康治  (Yamamoto Koji)  (10341934)	東海大学短期大学部・東海大学短期大学部・教授    (42680)	